



発行年月日 2026年6月30日

発行者 日本作業科学学会 アーカイブ担当

第30号は，2025年度（2025年7月1日～2026年6月30日）に開催された，学術大会，三役会，理事会の記録のまとめとなります。

日本作業科学研究会第28回学術大会

会期：2025年9月6日（土）～7日（日）

場所：東京都立大学 荒川キャンパス

テーマ：作業バランスの再考

大会長：清田 直樹（東北福祉大学）

副大会長：ボンジェ ペイター（広島都市学園大学）

参加登録期間：2024年4月1日～8月30日

演題登録期間：2024年4月1日～6月14日

内容

<オンラインプレワークショップ>

第1回

「作業科学への招待：意味を問い，実践をつなぐ」

日時：2025年7月4日（金）

講師：清田直樹氏（東北福祉大学）

第2回

「自分の作業バランスを知る：綱渡りイメージを使った自己分析」

日時：2025年7月22日（火）

講師：山根奈那子氏

（県立広島大学 総合学術研究科）

第3回

「社会変革と作業科学」

日時：2025年7月31日（木）

講師：鈴木洋介氏

（東京都立大学 人間健康科学研究科）

<1日目>

- ・基調講演『The Model of Occupational Harmony: An Eastern perspective on occupational balance』

講師：Yijun Liu (Peking University Health Science Center)

- ・対談&共創セッション『再び生きるため作業の力—出会い・変容を作業科学者である当事者や社会学の視点から考えよう』

講師：細田満和子氏（星槎大学）

ボンジェ ペイター氏（広島都市学園大学）

- ・ワークショップ『作業科学実践の知恵を紡ぐ対話：経験共有から生まれる新たな可能性』

<2日目>

- ・佐藤剛記念講演『OSの実証研究のススメ：OSで創出された概念を定量化する試み』

講師：今井忠則氏（北里大学）

- ・特別講演『“作業バランス”はどこから来たのか 何者か どこへ行くのか』

講師：山田優樹氏（東京都立大学）

- ・ワークショップ『学術大会の振り返り』

2025年度 三役会

第1回

<日時>2026年1月26日（月）

<形式>Zoom

<出席者>山根，坂上，渡辺，中塚，西方

【報告，審議事項】

1. 名誉会員の選出：宮前氏を推薦，理事会提案書類作成
2. 会費ペイ導入状況：移行作業へ
3. SIG申請進捗状況：OT協会に打診済
4. 総会日程の検討：2026年8月上旬で検討
5. 役員選挙の準備
 - ・選管の打診
 - ・次回理事会で立候補の意思を確認
 - ・次期5期目は2名，事務局移行も検討必要．監事要確認
6. 研修会謝金規定変更
 - ・OT協会の謝金規定変更に伴いJSSOの内規も変更を検討
7. 学術大会について
 - ・2027年（第30回）学術大会
日程：2027年9月4日（土），5日（日）
テーマ：「作業と場」再考：学際的視点から（仮）
佐藤剛記念講演：吉川ひろみ氏
運営支援の理事担当：清田
 - ・2028年（第31回）学術大会
理事，委員の中から大会長を打診

- ・韓国OSとの交流について
学術大会がある度に声掛けを行う
国際交流班より会員を派遣できるか検討

第2回

<日時>2026年4月21日

<形式>Zoom

<出席者>山根, 坂上, 渡辺, 中塚, 西方

【報告事項】

1. 会費ペイ導入状況:
 - ・会費入金者の有無にて会員整理
 - ・5月以降の新規登録, 会費ペイで一本化
2. 第29回学術大会について
 - ・演題, 参加登録者募集中
 - ・メールや理事会で演題登録や参加呼びかけ
3. 第31回学術大会について
 - ・高木雅之(県立広島大学) 大会長承諾
 - ・次回理事会で報告.
4. 名誉会員について: 宮前珠子氏
 - ・理事会で推薦, 総会で報告予定
 - ・会費免除を検討
 - ・学会HPでコメント掲載予定

【審議事項】

1. 役員選挙準備
ドライブ内資料を確認し進める(担当者: 大谷)
2. 第30回学術大会でのOS学会企画について
(案) 第30回記念大会企画として, これまでの実践
研修シリーズをシンポジウム形式にしようか
(担当者: 伊藤)
3. 事務局業務の引き継ぎ検討, 協力者募集
 - ・事務局設置場所
 - ・事務局業務の分担
会費ペイの導入により事務局業務の負担軽減可能
と予測
4. 総会準備
 - ・現在理事13名. 15名まで増員可能
 - ・次回理事会に向け, 理事に総会議案書作成を依頼

2025年度 理事会

第1回

<日程>2025年8月2日(土)

<形式>Zoom

<参加者>山根, 坂上, 中塚, 渡辺, 西方, 伊藤,
今井, 大下, 大谷, 高木, 高島, 安田, 清田, 西野

【報告・確認事項】

1. SIGの変更申請
名称変更に伴うSIGの変更申請が必要
研修会のない期間に申請予定
→第28回学会時に対面で検討
2. 各部の事業
変更等あればメール等で情報共有する
3. 委嘱状
2025年度分の準備を進めていく(PDFで共有予定)
4. 理事会および三役会の開催日
 - ・理事会: 2026年2月頃
 - ・三役会: 2025年12月頃

第2回

<日程>2026年3月3日(火)

<形式>Zoom

<参加者>山根, 坂上, 中塚, 西方, 伊藤, 今井,
大下, 大谷, 高木, 高島, 安田, 清田, 西野, 若井

【報告・確認事項】

1. SIGの変更申請
OT協会に申請し, 承認あり
今後, 新しい案内は「日本作業科学学会」で統一
※OT協会のHPでは「日本作業科学学会(2026.01変更)
(旧: 日本作業科学研究会)」と記載あり
※通帳は日本作業科学研究会のままなので, 要注意
2. 事務局体制
会費ペイを導入し運用へ
3. 第29回学術大会@札幌
 - ・会場が札幌医科大学に確定
 - ・タイムテーブル決定し各媒体で案内中
 - ・広報は大会HP, X, Instagramを運用
 - ・演題募集を開始しており, 〆切5/20に設定
 - ・今回大会は演題表彰を予定
 - ・学会参加のみでなく, 講師や発表でポイント付与
できるように準備中
 - ・海外講師講演について, AIを使った邦訳を検討中
(海外からの参加者に対してはAI英訳を検討)
4. 第30回学術大会@名古屋
 - ・日程: 2027年9月4・5日
 - ・テーマ: 「作業と場」再考: 学際的視点から(仮)
 - ・佐藤剛記念講演: 吉川ひろみ氏(県立広島大学)
 - ・場所: 名古屋大学で会場の候補を検討中
5. 2025年度会計
各事業の収支の確認

【審議事項】

1. 名誉会員の選出
宮前珠子氏を推薦 →理事会承認
2. 総会日程の検討
2026年7月25日(土)20:00～で調整
3. 役員選挙の準備
ドライブ内にある「2024年選挙今後の予定について」の資料を確認し、スケジュールを立てていく
→担当者：大谷
4. 研修会謝金規定（内規）変更
物価高などの影響を考慮して変更 →理事会承認
※ドライブ内に謝金内規の資料あり
5. 韓国OSとの交流
・本会の学術大会は継続して案内する
・韓国へ行くことを想定して予算立てするか検討（国際交流班）
・韓国OS学術大会は毎年開催ではないと情報あり
→2028年のAPOTCは韓国開催であるため、そのタイミングも活用して交流していく方向
6. 第31回学術大会の開催について
学会長候補者に打診
7. 第30回学術大会@名古屋での企画について
・第30回の記念大会であり、日本作業科学学会としての企画を検討
・（案）これまでの実践研修のシリーズをシンポジウム形式にしてはどうか
→担当者：伊藤
8. 事務局業務の引き継ぎ検討、協力者募集
事務局の所在地としては大学・研究室の方がよいか
→次の総会までの間に会費ペイの運用を確認して、引継ぎに向けて動いていく

第3回

<日程>2026年5月19日(火)

<形式>Zoom

<参加者>山根, 坂上, 中塚, 渡辺, 西方, 伊藤, 今井, 大下, 大谷, 高木, 高島, 清田, 西野, 若井, 安田

【報告・確認事項】

1. 会費ペイ導入状況
・銀行口座登録で登録（550円）あり→支払い済
・クレジット, コンビニ払いを7月以降に会員に案内
・新年度の研修会費納入は会費ペイを利用
→研修担当に情報提供
2. 第29回学術大会@札幌について

- ・演題登録が少ないため、演題登録期限を2026年6月5日まで延長
 - ・現時点の参加登録も少ないため広報していく
3. 第30回学術大会@名古屋について
・講演, シンポジウム講師を調整中
・名古屋大学東山キャンパスが会場候補
 4. 第31回学術大会@広島
高木雅之（県立広島大学）大会長に決定
 5. 名誉会員の選出
宮前珠子氏について理事会承認済
→総会で承認を得ていく

【審議事項】

1. 総会準備
・2026年7月25日(土)20:00～オンライン
・総会資料：各研修担当で会計部分（決算, 予算）を記載
※6月13日に研究推進班の研修があるため、早急に処理を進める
・担当者：案内ー山根, 西方
総会議案書ー渡辺, 坂上
2. 講師謝金の改定
OT協会で改定あり, 本会も内規で2026年度より変更
→次回理事会で検討
3. 役員選挙の準備
・委員長と委員を決定
・ホームページに掲載中
→会員案内後の状況を見て, 議長, 署名人を選出
4. 事務局業務の引き継ぎ検討
今後, 現事務局の所在を茨城県立医療大学（担当：伊藤）へ引き継ぎ, 調整していく
5. 機関誌編集委員会
納品予定が5月末で, 支払いは6月を予定
→総会資料の会計に反映
6. ニュース担当
6月に発行予定の号について, 理事・監事退任者3名からのコメントを依頼→掲載予定
7. 第29回学術大会@札幌より演題募集について
・非会員の学会発表
→筆頭演者は会員とし, 要項に記載していく
・演者の人数制限
→5名以上も可とするが条件設定の検討が必要
→札幌学会委員から提案し名古屋学会へ引き継ぐ
8. 研修開催時期
・なるべく重複を避けるようスケジュール調整
・実践研修：2027年2月

- ・研究法研修：2026年10月，2027年3月，6月
8. 理事会および三役会の開催日
- ・理事会：2026年7月25日(土)総会後
 - ・三役会：2026年6月22日(月)20:00～

✿…………… ご挨拶 ……………✿

今期をもって退任される理事・監事の皆様より，ご挨拶をお寄せいただきました。

長年にわたり本学会の活動を支え，その発展にご貢献いただいたこと，心より感謝申し上げます。ここに退任にあたってのメッセージを掲載いたします。

【理事】

渡辺慎介（専門学校YICリハビリテーション大学校）

2013年の研究法研修（in愛知）への運営参画を皮切りに，14年の学術大会（in山口）実行委員長をはじめ，実践研修，研究法研修と，全ての研修運営に携わってまいりました。

特に，実践研修前の学びの必要性を感じて立ち上げた「基礎入門研修」が，今や多くの参加者が集う研修会へ成長したことは大きな誇りであり，感慨深いです。私にとってOSは，OT観に悩む者同士をつなぐ架け橋であり，これまでいただいた多くの出会いは生涯の財産となりました。

今後は一会員として，学会のさらなる発展を心より祈念しております。十数年間の長きにわたり，本当にありがとうございました。

今井 忠則（北里大学）

このたび，3期6年にわたり務めました理事を退任することとなりました。任期中は主に学術部および学術誌『作業科学研究』の担当理事として，新査読システムの構築，査読員制度の創設，学術誌のオープンジャーナル化に取り組んでまいりました。理事に立候補した当時は，査読に対する不評や投稿・掲載数の伸び悩みに，学術団体として危機感を抱いておりました。現在では，査読期間の短縮や査読体制の効率化，妥当性の向上などに一定の成果が得られたことから，一つの区切りと考え，退任することといたしました。ご多忙の中で査読をお引き受けくださった査読員の先生方には，心より感謝申し上げます。今後もしばらくは編集委員として学術誌の運営に携わり，引き続き学会に貢献してまいりたいと存じます。

【監事】

若井亜矢子（札幌リハビリテーション専門学校）

私は2018年度4期8年にわたり，監事として当会に関わらせていただきました。この間，強く印象に残っていることは日本学術会議に登録されたことです。この動きは，作業科学の研究を進める大学院生に，当会学術誌への論文掲載を学位取得へ結びつけたいという理事会の熱い思いからスタートしました。前会長吉川さんが中心となり，理事・役員，会員の作業科学の研究と学問的発展の重要性を丁寧に伝え，研究職へ入会を勧め，念願の学術団体として認められました。これは，現在だけではなく，未来の作業科学を学ぶ学生，臨床家，研究者のための作業であったと感じています。これからも当会の活動に会員として注目して参ります。ありがとうございました。

✿…………… 編集後記 ……………✿

今年度のニュースは何と言っても，本団体の名称が『研究会』から『学会』へと変更されたことだと私自身感じています。気付けば変わっていた，ということは普段の生活の中でもよく遭遇しますが，変わるために関わる人たち，その段取り，掛ける時間，関係者の想い等，様々なプロセスを経て変わっていくことを身近に感じた1年でした。現在，会員管理等の事務局業務を移行しており，今後も本学会はどんどん変化していく予定です。会員の皆様はもちろん，たくさんの方に本学会の情報をタイムリーにお伝えできるよう，広報にも力を入れていきたいと感じた今年度でした。（編集者Y）

本会は2006年10月に開催された第10回日本作業科学セミナーにて発足し，もうすぐ団体発足から20年の節目を迎えます。昨年はZemkeさんを第1号の名誉会員としてお迎えし，ウェブページにご挨拶を掲載しました（<https://jsso.jp/2025/08/24/ruth-zemke-phd/>）。個人的にも，関わっていただく方々へのリスペクトが募った一年であり，会の運営一つをとってみても，やってみることで，続けていくことで見えてくるものがあるなと感じています。コスパやタイプが求められがちな昨今ですが，意味を見いだせるようになる過程にも目を向けられると良いなと思います。（編集者O）